

生命の色

温麗萍
WEN LIPING

子供の頃、日本の漫画やアニメーションをよく見ていました。特に印象的なのは『SLAM DUNK』と『ブラック・ジャック』です。『SLAM DUNK』では、夢を信じた、汗と熱意の物語です。その時、自分は、努力すれば、夢はきっと叶うと感じました。成長してから『ブラック・ジャック』を見たとき、大人の世界は、夢と熱意をもっているだけでは足りないと思いました。現実の社会は厳しく、どんなに頑張っても、理不尽な仕打ちを受けることがあります。金銭、疾病、詐欺、格差等々努力しても、解決できない問題もたくさん存在しています。しかし、きっとどこかにブラック・ジャックがいて、苦しい人や暗闇の社会を癒すことが出来ると信じています。自分もそのような大人になりたいとその時に気づき、いつかは漫画の国、日本へ実際に行ってみたいと思いました。

初めて熊本の風景を目にしたのは、『夏目友人帳』というアニメです。熊本の森や川などの美しく静かな自然環境は人を癒せると思いました。2021年4月、自分の幼いころからの夢を叶えて、熊本での留学生生活を始めました。道側に萌え出る若葉の銀杏並木、サラサラと流れる川、時々青空を飛んで行く鳥、春緑の息吹を感じました。

しかし、2年程の新型コロナウイルスの流行で、道を歩いている人は少なくなり、人々の笑声もだんだん聞こえなくなりました。いつもの綺麗な「森の都」がまるで霧に覆われたように、色を失いました。私も、大学での学習やアルバイト、たまの博物館や美術館見学、遊園地でのひと時など、平

凡な留学生生活を自由に送ることができなくなりました。一方で、自粛期間の生活は、学生も社会人も関係なく、皆の高度な約束力に大変驚きました。中国との違いは、日本国内の感染症対策は、強制ではなく、国民が自分自身で立てた規範に従って行動していることです。経済的な援助、互いに助け合うことにはとても感銘を受けました。特に、コロナウイルス現場の最前線の医療従事者は白衣の天使のように命を救い、大変尊敬しています。社会は一人一人の意識や行動によって築かれるものであるため、人はそれぞれが社会の一員としての責任を果たすことを強く意識しています。

医学生として私は、常に生命のことを考えています。では、生命の色は何色？夢を持っている情熱の赤色？活気に満ち溢れて生い茂る緑色？命を守って静穏な癒しの白色？私は、生命の色は様々な色を組み合わせたものだと思います。まるで世界も様々な肌色の人からできているみたいです。色彩が入り交じる留学生の私たちも架け橋となって国と国の文化交流を続け、世界を多彩に染めていきます。そして、私は感染症の原因となる病原微生物の検査および病態制御機構の研究について学び、将来は研究者になることを目指しています。学んだ知識を生かし、新薬の研究開発をすることで、世界の人々の健康生活に彩りを添えたいです。